

## 令和7年度地域の「話し愛・支え愛」推進事業の評価について

## ◎令和7年度 重層的支援体制整備事業実施要綱

「生活困窮者支援のための地域づくり事業」（地域づくりに向けた支援）より

## 4 事業評価

本事業の実施主体は、本事業の実施に当たって、地域福祉計画を踏まえつつ、支援が必要な者の人数や支援の実施回数のみに留まらずにアウトカムの数値を基本とした成果目標を立てるとともに、本事業による国庫補助を受けた年度の概ね3月に、学識有識者や現場有識者等第三者が参画した検証の場を設置する等により、当該年度における本事業の実施状況について評価を行い、補助金の実績報告の際にその内容について厚生労働省に報告すること。

## ◎地域の「支え愛・話し愛」推進事業 令和7年度実施状況

## 1. 事業の概要

【委託先】鳥取市社会福祉協議会

【事業の目的】（モデル事業）

モデル地区で、サロン等の住民の集いの場（しゃべり場）、関係団体・住民による支え合い活動の検討の場（ささえ場）、担い手の育成や住民の支え合い意識を高める学習の場（まなび場）の活動を促進し、住民による地域の支え愛サイクル（3つの場をつなぐ）の活性化・環境づくりに向けた支援を行う。

【事業の効果】※事業の実施により期待される効果や地域の変化

住民が地域の福祉課題に気づき、福祉課題を地域で支え合う場づくりの事例を積み上げることで、福祉に関する住民意識が醸成され、地域の担い手づくりの基盤構築を進めることができる。

【事業の成果目標】

○アウトプット（事業の実施による結果）

①しゃべり場の開催回数 月1回以上

②ささえ場の開催回数 2月に1回程度開催

○アウトカム（成果）

③支え愛マップ作成等、地域や町内会等の小地域で行った地域福祉活動の数

## 2. 地区別の状況 ※詳細は資料1別紙のとおり

### ア. 修立地区

#### 【地区の目標】

- 1) つどい場（しゃべり場）の充実を図る
- 2) つどい場（しゃべり場）の参加者からニーズを把握
- 3) 地域団体と関係団体が連携し、ささえ場、つどい場、まなび場を相互につなぎ、課題解決に向かう仕組みづくりをする。

#### 【実施状況】

##### ◎防災×フレイル×まちづくり

防災・フレイル予防・まちづくりを一体的に進める取り組みを実施

- ・防災に関連する研修会、講習会の実施
- ・支え愛マップの作成（新規作成：6町内会、更新：1町内会）

※研修会等に参加した住民からの希望による。

- ・住民向けハンドブック作成

##### ○e スポーツ体験の定期開催

- まちづくり協議会・地区公民館を中心に、地域団体や関係機関が流動的に参加して地域課題の共有や解決に向けた協議を継続的に実施

##### ○実施状況（令和8年2月現在）

①しゃべり場の開催回数	<u>17</u> 回
②ささえ場の開催回数	<u>16</u> 回
③小地域活動の回数	<u>25</u> 回

#### 【成果・課題】

- ・住民アンケートの結果から、防災・フレイル予防・まちづくりを一体的に進める取り組みを実施したことにより、住民の自助と互助意識の向上につながった。また、そのことにより、支え愛マップを作成し支援を要する住民の把握につながった。
- ・e スポーツ体験会の運営補助に不登校の学生が参加してくれるなど、地域への参加支援に一定の効果があった。
- ・地域づくりには多様な団体が協働して活動することが重要だが、活動に消極的な団体もあり、連携や調整に労力を有している。
- ・このたびは、修立地区全体と高齢者の一部の方に「自助・共助（互助）」の必要性の説明を行い事業へ取り組むことができたが、今後、より多くの団体、住民にこれらを継続して取り組めるよう定着させるには、調整

役を置きながら、安定した福祉ネットワークの運営と住民意識の継続を呼びかける必要があると考える。

## イ. 美保南地区

### 【地区の目標】

- 1) つどい場の参加者だけでなく広く地域へニーズ調査を行う。
- 2) ニーズ調査で把握した内容を、公民館やまちづくり協議会などの地域団体とともに整理していくことで、ささえ場やまなび場を形づくる。

### 【実施状況】

- 地域食堂の開催
- 全世帯を対象に地域の困り事に関するアンケートの実施
- 支え愛マップ作成体験
- ※鳥取大学地域調査プロジェクトとの連携（まなび場として）

#### ○実施状況（令和8年2月現在）

- |             |             |
|-------------|-------------|
| ①しゃべり場の開催回数 | <u>12</u> 回 |
| ②ささえ場の開催回数  | <u>9</u> 回  |
| ③小地域活動の回数   | <u>13</u> 回 |

### 【成果・課題】

- ・地域食堂は、多世代に利用してもらえるようチラシ作成等広報に力を入れ、利用者増となった。今後はスタッフの確保と、参加者から困り事を拾える仕組みづくりが課題と考える。
- ・アンケート結果から、主に健康・福祉に関わる地域団体、機関において検討し今後の取り組みで実現可能なものを事業化することとした。取り組みにあたっては、各団体が連携して進めることが大切と考える。
- ・支え愛マップはまだあまり普及しておらず、手始めに架空の住民を設定し支え愛マップの作成体験を実施した。今後は町内会による支え愛マップ作成を支援し、地域による要支援者の把握と支援につなげたい。
- ・土台となる住民同士のつながりが希薄となっていることから、支え合い、助けあいの前に、「あいさつする」「顔が分かる」「名前がわかる」など住民同士のつながりを構築することから取り組むことが必要である。  
今後、団体同士のネットワークの形成や、住民同士のつながりづくりを支援するための仕組みが必要と感じる。